

劔岳（2999m）日本百名山

2023年8月3日 Shiba

日本の山の中でも屈指の岩峰の山である劔岳。頂上にたどり着くまでの急峻な岩稜帯の距離でも日本屈指である。室堂方面からカニのタテバイ、ヨコバイを伝って登る人の方が多いと思うが、筆者としては 2 回目の劔岳挑戦となるので、今回は北アルプス三大急登の一つである早月尾根コースからのアプローチにチャレンジした。

(8月2日)

鉄道で富山地铁の上市まで、ここからタクシーで劔岳登山口の馬場島へ。そしてこの馬場島荘に前泊した。馬場島荘の前には公共の無料駐車場があり、よく整備されたキャンプ場が広がっている。馬場島荘からはわずかに劔岳のてっぺんを望むことができる。

朝食を終え 7:05 にスタートし早月小屋を目指す。宿から 200m 程行くと登山口。尾根伝いの急登がいきなり始まる。1 時間程登ると標高 1000m の松尾平、ここからしばらくはなだらかな道となる。樹林帯の中でもあるので風がほとんどなく視界も利かないが標高 1400m 程になると富山湾が見えるようになる。途中には梯子やロープ、鎖場がありストックが邪魔になることもしばしば。道は総じてジグザクが少なくその分急峻な登りになっている様を感じる。11 時頃になると山の上の方からガスが掛かり始め、13 時ごろには周りは薄いガスに包まれるようになった。早月小屋のすぐ手前にほんの少し小高くなった丸山がありこのピークを越えて 14:20 に早月小屋に到着。



馬場島の劔岳登山口

(8月3日)

小屋の宿泊客は 11 人で登山客は 9 人。その内朝食を取ったのは我々 3 人のみで他の人たちは早々と立って行った。5:30 に小屋をスタート、雲一つない青空に期待が膨らむ。ここからは道はさらに険しくなり 2400m 標識からはストックも畳んだ。2600m 標識の先には長さ 40~50m の雪渓がありそこを避けて登っていく。ロープや鎖場も頻繁になり、2800m ぐらいからはほぼ岩稜帯になる。この付近で時刻が 9:00 頃。遠くには雲の発生兆しが見え、早く登りきらねばと気が焦る。今回同行者の体調崩れもあり頂上到着は 10:25。富士山や槍ヶ岳は雲に遮られていたが白馬岳などは綺麗に見ることができた。ここ 1 週間程は夏の典型的な天候の模様。すなわち午前の早い時間は晴天、正午に近づくとつれ雲が湧き出てきて午後

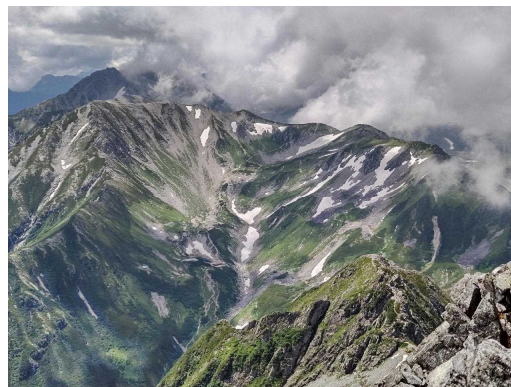


劔岳山頂の祠

3～5 時頃には夕立という繰り返し。天候的には 80% ぐらいの出来と考え山頂をあとにした。

◆NHK「百名山」出演のガイドさん登場

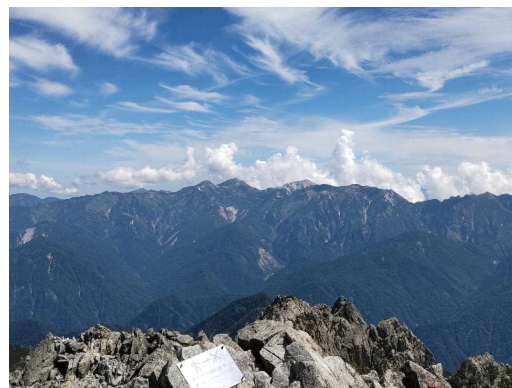
早月小屋の談話室では DVD の利用が自由で、そこにあった NHK 番組の百名山の「劔編」を視聴した。コースも正しく早月尾根コース。そこに紹介されているガイドさんはなんと宿泊した宿の大将ではないか。下山後、同じ宿でシャワーを利用させてもらい、大将に DVD で見たよと話すと「いや～もう 10 年も前の話してお恥ずかしい」と恐縮の弁。



劔沢（別山平）を見下す

◆トレランが席卷する早月尾根

早月尾根コースで出会った人の 2/3 ぐらいの人はトレラン姿での日帰り登山。標準コースタイムは往復 15 時間半で高低差は 2,200m もある。そこを、最初に出会った人は 9 時間で達成。馬場島の駐車場からのスタート時刻は人により深夜の 1 時ぐらいから朝の 6 時ぐらいまでの模様。一方、室堂方面(地鉄立山)からの日帰り登山は交通機関の運行時間の関係で無理なようである。日本アルプスに登頂する体力を維持するのがやっとの筆者の癖み(ひがみ)でもあるが、時間だけを追い求めているような登り方に、なにかしらの違和感を禁じ得なかった。



後立山連峰白馬岳を望む

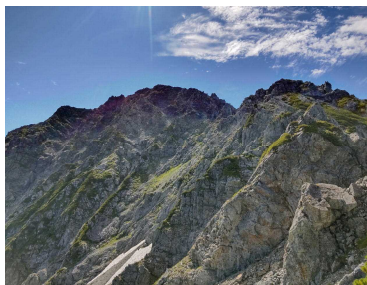
◆メンバー：S、他 2 人

◆コース：(8 月 2 日) 馬場島荘 7:05～松尾平～1600m 地点～丸山～早月小屋 14:20

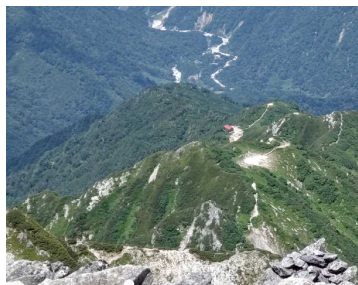
(8 月 3 日) 早月小屋 5:30～2800m 地点 9:00～劔岳山頂 10:25～早月小屋 15:50

(8 月 4 日) 早月小屋 5:50～馬場島荘 12:50

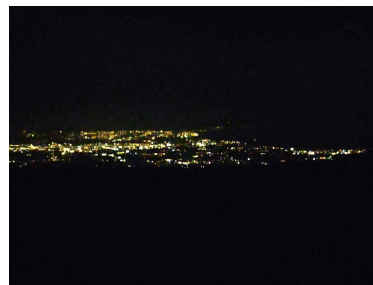
◆所要時間／歩行時間：(8 月 2 日) 7 時間 15 分／6 時間 00 分、(8 月 3 日) 10 時間 20 分／8 時間 40 分、(8 月 3 日) 7 時間 00 分／6 時間 20 分



2800m 付近からの劔岳



早月小屋と馬場島荘を見下す



早月小屋からの富山湾の夜景